

委員会審査

総務常任委員会

質疑 コンプライアンス室の設置目的と経費の内容は。
答弁 職員が事務を公正に実施していくために設置した。経費は、法令遵守の意識啓発に向けた職員研修等の開催経費や弁護士への法律相談委託料、そのほか事務的な管理経費などである。
質疑 災害対策車の運営管理を委託した理由は。
答弁 災害時には機械の操作や現場での安全管理などいろいろな業務があり、1台当たり7人の作業員が必要である。管理経費や日々の点検業務も合わせて、総合的な判断の中で業務委託とした。

市民経済常任委員会

質疑 特殊詐欺対策電話装置等購入補助金の概要は。
答弁 振り込め詐欺などの被害を未然に防ぐため、特殊詐欺防止機能がついた電話装置等の購入費用の一部を助成する。助成金額は購入費の2分の1で、上限は5千円である。
質疑 労使会館の建て替え調査委託料の内容は。
答弁 施設全体の老朽化が進み、補強や建て替えが必要とされている。建て替えに向けて建物規模や配置の検討、全体的な構想などを決めていきたい。

環境施設建設特別委員会

質疑 高浜クリーンセンターの土木建築設計が完了する時期は。
答弁 6月ごろにまとまる予定である。設計が終わり次第、工程や施設の概要を示していきたい。
質疑 温水プールを含めた余熱利用の考えは。
答弁 新しいクリーンセンターの完成後に現在のクリーンセンターを解体し、その跡地に余熱を使った温水プールを整備する予定である。



建て替えが始まる
高浜クリーンセンター

各常任委員会および各特別委員会において、付託された議案などを審査しました。
質疑・答弁の一部を掲載します。

教育福祉常任委員会

質疑 小児慢性特定疾病児童等特別助成扶助費の対象者とその内容は。
答弁 小児慢性特定疾病の重症患者認定または人工呼吸器装着認定を受けている子どもとその家族が対象である。テーマパークなどの入場料金や施設の駐車料金を助成するもので、助成額は年度当たり10万円を上限とする。
質疑 給食室空調設備設置工事の予定は。
答弁 夏休み期間中に、小学校2校と中学校1校の工事を行う予定である。

建設水道常任委員会

質疑 河川クリーンアップパトロールの内容は。
答弁 倉渚地域の良好な河川景観を維持するために、地域住民の有償ボランティアによる河川のパトロールを実施する。
質疑 新町駅エレベーター設置工事の進捗状況は。
答弁 台風19号の影響により延期となっていたが、3月には工事に着手できる見込みである。完成時期については、当初の目標どおり令和3年6月を厳守したい。



河川敷に残されたバーベキュー跡

都市集客施設整備特別委員会

質疑 高崎芸術劇場の指定管理料の積算は。
答弁 劇場運営経費の約16億1千万円から、指定管理者収入の約3億5千万円を差し引いた、約12億6千万円を指定管理料としている。
質疑 ホテル招致調査の進捗状況は。
答弁 質の高いホテルの招致に向けて周知戦略の策定を行ってきた。新年度は、候補となるホテルを絞り込み、より具体的なアプローチやそのための調査や資料作成などを委託して、さらなる事業の進展を図りたい。



高崎HANAビーコンクール

丸山芳典
(新風会)

質問 倉渚地域で開催に至った経緯とその成果は。
答弁 くらぶち夏祭りの打ち上げ花火が大変好評なことから冬の時期の実施に向け研究を重ね、全国初の40歳以下の若手花火師によるコンクールを開催した。約1万人の来場者を迎え、SNSなどに感謝や感動の書き込みと来年度の開催を望む声が約200件寄せられた。会場となった道の駅くらぶち小栗の里の認知度も高まり、交流人口の増加にも一定の効果があった。

質問 開催を通じての課題と来年度の開催予定は。
答弁 千台を超える駐車場と会場を結ぶシャトルバスを運行したが、想定以上の来場者とアクセス道路が国道406号線のみであることから交通渋滞が発生した。本コンクールは、地域振興の起爆剤に十分なり得ると考えている。今後、交通渋滞などの課題を解消するための研究を重ね、来年度も冬の時期に開催したい。



英語教育事業
加齢性難聴者に対する支援
(日本共産党)

質問 4技能テストに民間であるGTECを選択し、任意受検から全員受検に変更した理由は。また、費用と受検者数の状況は。
答弁 GTECは中学生が英語を使う場面を想定した問題となっており、生徒にとって取り組みやすいという特徴がある。平成30年度に市内4校で先行実施した

結果、生徒が自己の英語力を把握し、今後の学習に生かすことが見込まれたため、対象を中学2年生とした。受検料は一人当たり4700円で、令和2年1月に約3千人が受検した。
質問 加齢性難聴者に対する補聴器の購入補助制度の創設の考えは。
答弁 聴覚障害による身体



買い物困難な高齢者等への移動販売

質問 高齢者対策として、本市の生活支援体制整備事業の進捗状況と特徴は。
答弁 お互いさまで支え合う基盤を作るための場として、協議体という仕組みを地域に設置し、互助を基盤とした体制整備を推進している。本市の特徴として、市内全域の日常生活圏ごとに26カ所の第2層協議体が発足しており、困りごとの解決を目標に、地域の状況



地域の支え合い活動

片貝喜一郎
(新風会)

に合わせた支え合い活動を行っている。
質問 協議体から生まれた支え合いの活動と課題は。
答弁 高齢者の買い物支援

障害者手帳を持つ人に対し、補聴器の購入費用の一部を支給している。補助基準額は3万4千円から13万7千円で、本人負担は原則1割

となる。加齢性難聴者が日常生活を過ごしやすくなるよう、制度について周知、啓発を図っていきたい。



市議会の予定

5月		
19日(火)	午後1時	臨時会
6月		
10日(水)	午後1時	開会、会期の決定、議案の提案説明など
11日(木)	午後1時	一般質問
12日(金)		
15日(月)		
16日(火)		
18日(木)	午前10時 午後1時30分	総務常任委員会 教育福祉常任委員会
19日(金)	午前10時 午後1時30分	市民経済常任委員会 建設水道常任委員会
24日(水)	午後1時	委員長報告、提出議案等の議決、閉会



GTEC

Global Test of English Communicationの略語。ベネッセコーポレーションが実施している英語4技能検定。

協議体

地域住民をはじめとする地域の関係者で構成され、多様な生活支援サービスの提供体制の構築を推進する団体。市全域で活動する第1層協議体と日常生活圏域で活動する第2層協議体がある。